

年金総合リサーチセンター 主任研究員 中嶋 邦夫  
(03)3512-1859 [nakasima@nli-research.co.jp](mailto:nakasima@nli-research.co.jp)  
[http://www.nli-research.co.jp/company/insurance/kunio\\_nakashima.html](http://www.nli-research.co.jp/company/insurance/kunio_nakashima.html)

## 1 —— 先月までの動き

年金事業管理部会では、新たな年金記録訂正手続の実施や制度改正の施行等について詳細な説明が行われました。中でも「短時間労働者に対する厚生年金適用拡大」については、適用拡大の5要件の詳細な取扱い基準などの具体的な内容が報告されました。また年金数理部会では、例年どおり前年度(2013年度)の公的年金の財政状況の分析結果が取りまとめられました。

- 3月3日 社会保障審議会 厚生年金基金の特例解散等に関する専門委員会 (第11回)  
テーマ 特例解散等の調査審議について(非公開)  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000075469.html> (開催案内)
- 3月5日 財政制度等審議会 国家公務員共済組合分科会 (第22回)  
テーマ 分科会長の選任・分科会長代理の指名、積立金等の運用の基本方針  
URL [http://www.mof.go.jp/about\\_mof/councils/fiscal\\_system\\_council/sub-of\\_kkr/proceedings/material/kyousai270305.html](http://www.mof.go.jp/about_mof/councils/fiscal_system_council/sub-of_kkr/proceedings/material/kyousai270305.html) (配布資料)
- 3月16日 公的年金の分かりやすい情報発信モデル事業検討会 (第9回)  
テーマ 取りまとめについて、その他  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000077897.html> (配布資料)
- 3月17日 社会保障審議会 年金事業管理部会 (第8回)  
テーマ 新たな年金記録訂正手続の実施、制度改正の施行等、障害年金制度の運用に関する対応状況  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000078346.html> (配布資料)
- 3月31日 社会保障審議会 年金数理部会 (第63回)  
テーマ 公的年金財政状況報告(平成25年度)、その他  
URL <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000080178.html> (開催案内)

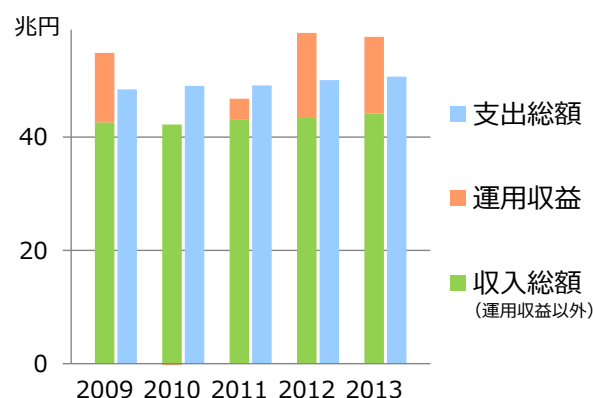
## 2 — ポイント解説：年金数理部会報告の改善点と課題

先月末に、社会保障審議会の年金数理部会が公的年金の財政状況の分析結果「[公的年金財政状況報告\(平成25年度\)](#)」を公表しました。本稿では、年金財政の状況を確認するとともに、この分析の改善された点と今後への期待を整理します。

### 1 | 年金財政の状況：実質的な運用利回りが好調

本誌2015年1月号でお伝えしたように、年金数理部会は公的年金財政のお目付役にあたる機関です。今回公表された分析結果によると、2013年度は運用収益以外の基礎的な収支が6.5兆円の赤字だったものの、運用収益が引き続き好調だったため、全体では8.1兆円の黒字となりました。また、今後の動向が2009年に作成された将来見通しの想定どおりならば、過去の1年分の運用下振れリスクに耐えうる余裕を持っていると分析しています。

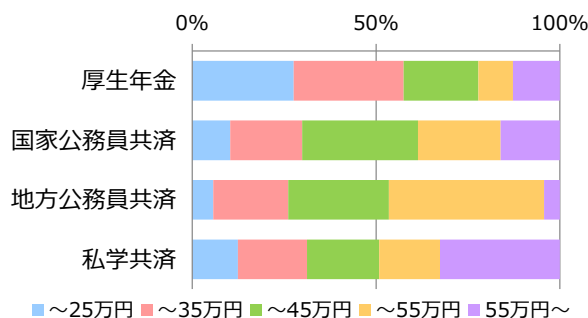
図表1 公的年金財政(全体)の状況



### 2 | 改善された点：新情報と分かりやすい図の追加

年金数理部会の分析は毎年行われていますが、今回はいくつかの改善が図られました。例えば、各制度の加入者の給与分布を明らかにした点は、今年10月に予定されている厚生年金と公務員共済等の一元化を検証する際に有益な情報となります。また、将来見通しとの前提の差を丁寧に確認した点は、昨年6月に公表された将来見通しを検証する際に有益な情報となります。随所に分かりやすいグラフが増えているのも、注目されます。

図表2 給与(標準報酬月額)の分布(男性)

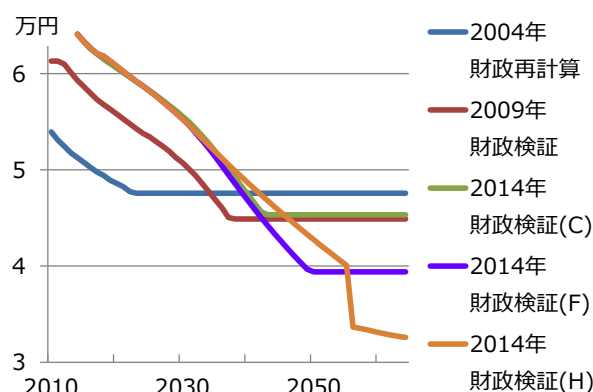


(注1) 区分の境界の金額は概数。  
(注2) 地方公務員共済は、給料月額を1.25倍した値で作図した。

### 3 | 今後への期待：国民年金財政の詳細な分析を

一方で、国民年金財政の分析が従来どおりだったのは残念でした。国民年金の財政状況は、将来の基礎年金の水準に影響を与えるため重要です。昨年6月に公表された財政見通しでは基礎年金の水準が大幅に下がる結果になり、年金部会で大きな論点になりました。年金数理部会自身も、2011年3月に公表した[将来見通しに関する報告書](#)で、国民年金の財政状況について詳細に分析する必要を訴えていました。年金数理部会はもともと厚生年金と公務員共済等の一元化の検証を主目的に設置された組織ですし、国民年金は定額負担・定額給付方式なので厚生年金などとは異なる方法での分析が必要になりますが、将来の基礎年金を確保するために国民年金財政の詳細な分析が期待されます。

図表3 基礎年金水準(65歳時点)の見通し



(注1) 金額は2014年度価格(手取り賃金上昇率で実質化)。  
(注2) 2014年財政検証のカッコ内は経済前提のケース名。

\* 拙稿「[年金改革ウォッチ 2014年9月号～ポイント解説：基礎年金の問題・原因・対策](#)」を参照。